

お知らせ

記者発表資料
配布日時

平成30年7月19日(木)
17:00

■同時発表先：

合同庁舎記者クラブ、広島県政記者クラブ、中国地方建設記者クラブ

平成30年7月豪雨（西日本豪雨） ＜太田川水系 出水レポート＞【第2報】について

平成30年7月6日～7日に発生した西日本豪雨の、太田川における出水状況について（第2報）をお知らせします。

【問い合わせ先】

国土交通省 中国地方整備局 太田川河川事務所

TEL (082) - 222-9245 (災害対策支部直通)

副所長(河川) おおくぼ まさ ひこ
大久保 雅彦

調査設計第1課長 にご しんや
児子 真也

[太田川河川事務所HP] <http://www.cgr.mlit.go.jp/ootagawa/index.htm>

平成30年7月豪雨(西日本豪雨) ＜太田川水系 出水レポート＞



平成30年7月7日11時16分三篠川深川5丁目付近

太田川大芝水門 太田川水系 太田川 左岸 5.7k



広島県広島市西区大芝 大芝出張所
平成30年7月7日6時27分

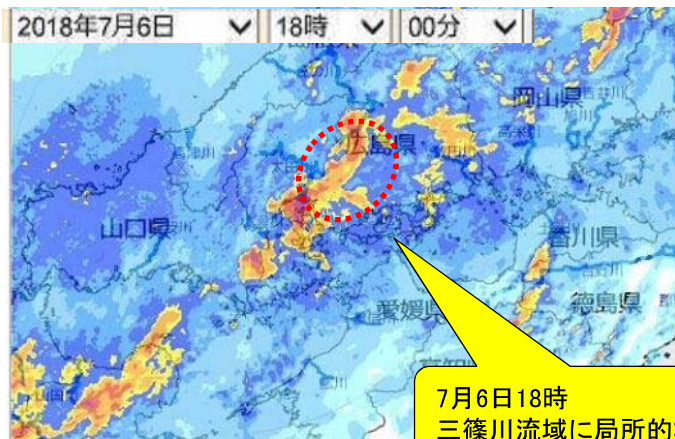
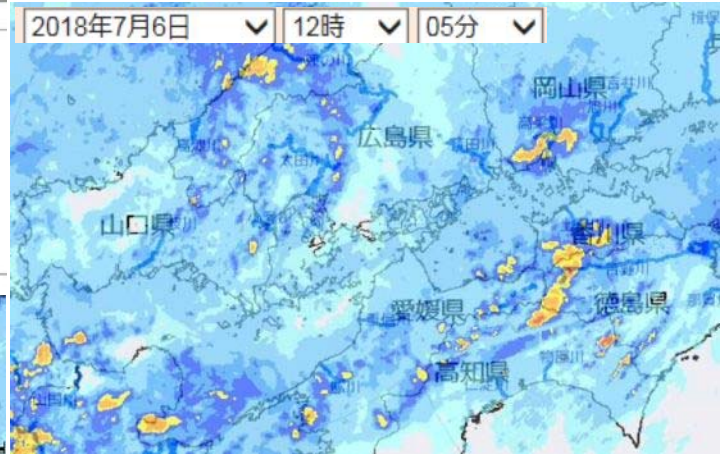
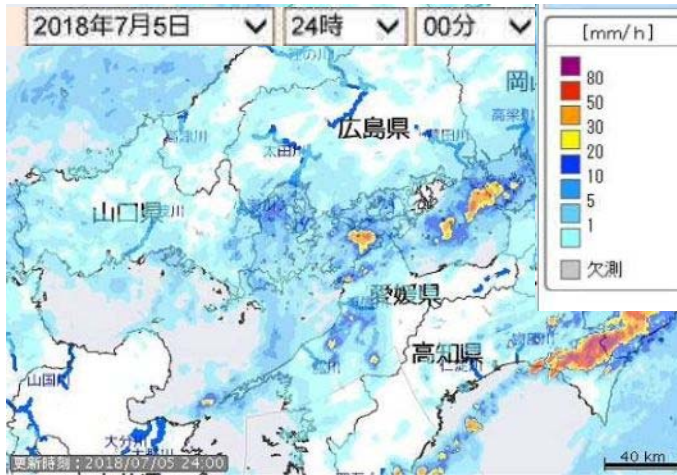
根谷川 太田川水系 根谷川 右岸 4.1k



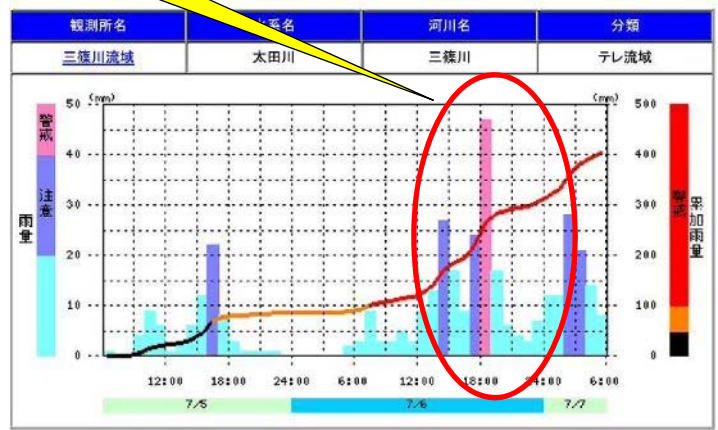
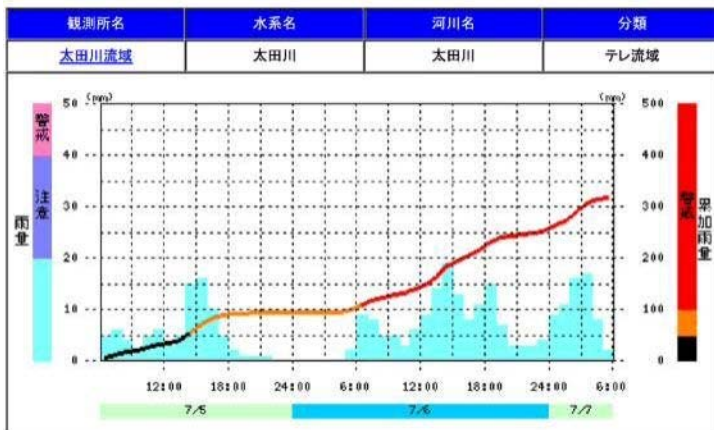
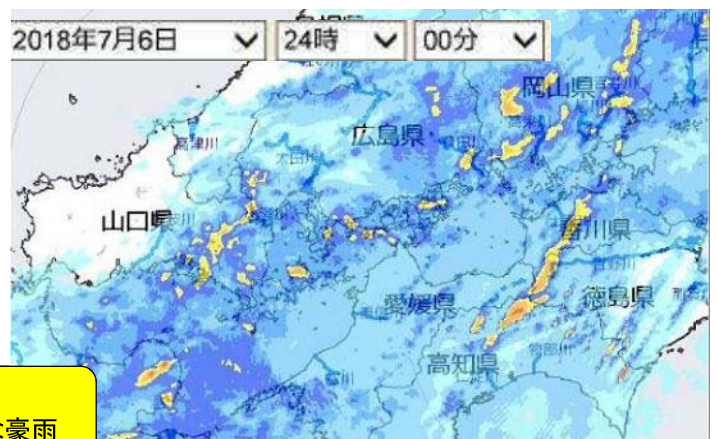
広島県広島市安佐北区可部 上市井堰
平成30年7月6日14時21分

1-①降雨の状況

○平成30年7月5日から7月7日にかけて、山陽地方および中国山地沿いを中心に梅雨前線が停滞したことで、広島県では局地的な大雨となった。
 ○三篠川流域の広島市安佐北区狩留家観測所では降り始めからの累加雨量が432mmを記録した。



7月6日18時
三篠川流域に局所的な豪雨



1-②河川水位の状況

○太田川水系水位流量観測所全9観測所のうち、8観測所で氾濫注意水位を超過した。

○三篠川中深川観測所では氾濫危険水位を約2.7m超え、既往最高水位(5.20m S40.6.20)に次ぐ観測史上2位の5.02m水位を記録した。

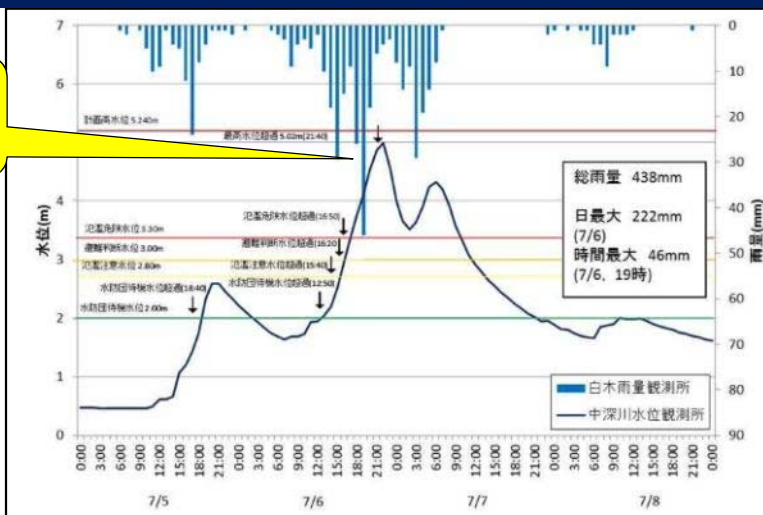


水系名	河川名	地点	観測日時	観測水位	氾濫注意水位	避難判断水位	危険水位(m)	計画高水位(m)	備考	
										既往最高水位(m)
太田川	太田川	土居	7月6日 16:50	4.29	4.0	4.6	5.0	7.738	氾濫注意水位超過	4.85 2005/9/6
		加計	7月6日 17:30	2.53	2.0	2.9	3.7	7.107	氾濫注意水位超過	6.21 1972/7/11
		飯室	7月6日 18:10	5.70	3.8	6.0	7.1	10.246	氾濫注意水位超過	9.44 2005/9/7
		中野	7月6日 18:30	5.43	5.5	6.2	6.9	8.08	水防回待機水位超過	7.29 2005/9/7
		矢口第一	7月6日 20:20	6.84	5.0	6.1	7.4	8.722	避難判断水位超過	8.06 2005/9/7
		祇園大橋	7月6日 21:40	5.04	4.3	6.4	7.0	7.134	氾濫注意水位超過	6.11 2005/9/7
	三篠川	中深川	7月6日 21:40	5.02	2.8	3.0	3.3	5.24	氾濫危険水位超過	5.20 1965/6/20
根谷川	新川橋	新川橋	7月6日 18:50	2.76	1.7	1.8	2.5	3.908	氾濫危険水位超過	3.53 2014/8/20
小瀬川	小瀬川	両国橋	7月7日 4:30	3.93	3.9	4.4	4.9	6.074	氾濫注意水位超過	8.07 1950./5/29
		小川津	7月7日 4:10	4.86	4.0	5.7	6.2	6.492	氾濫注意水位超過	5.31 1958./6/28

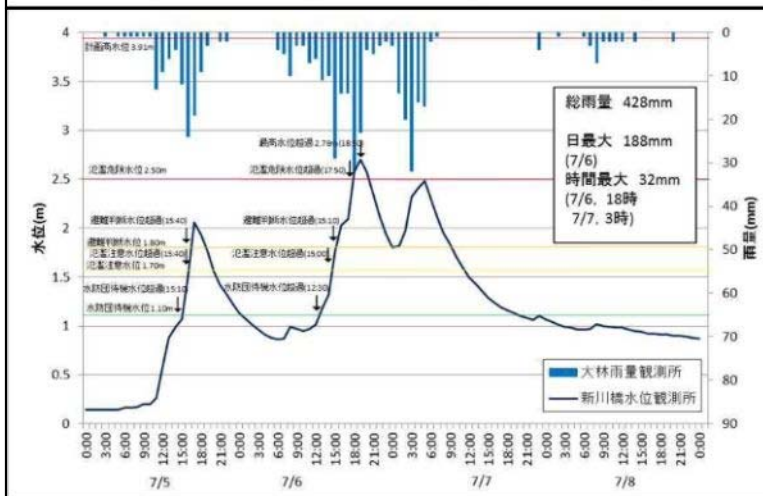
1-②河川水位の状況

氾濫危険水位を超え、
計画高水位に迫る
5.02mを観測

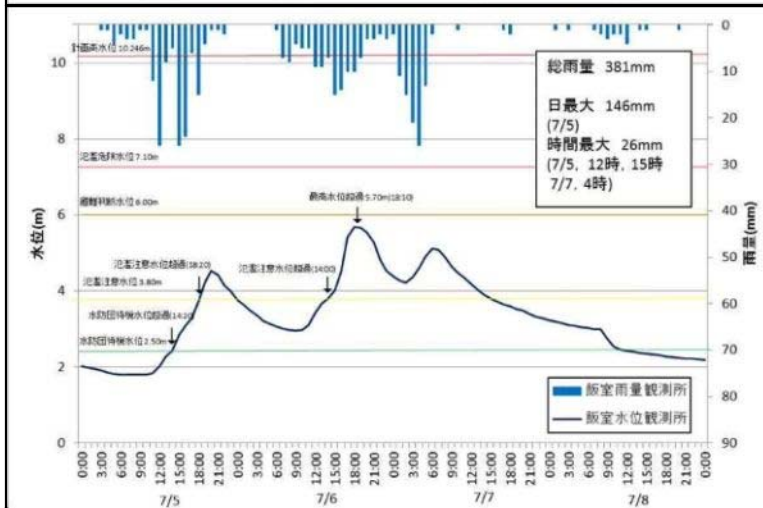
太田川水系三篠川
中深川水位観測所



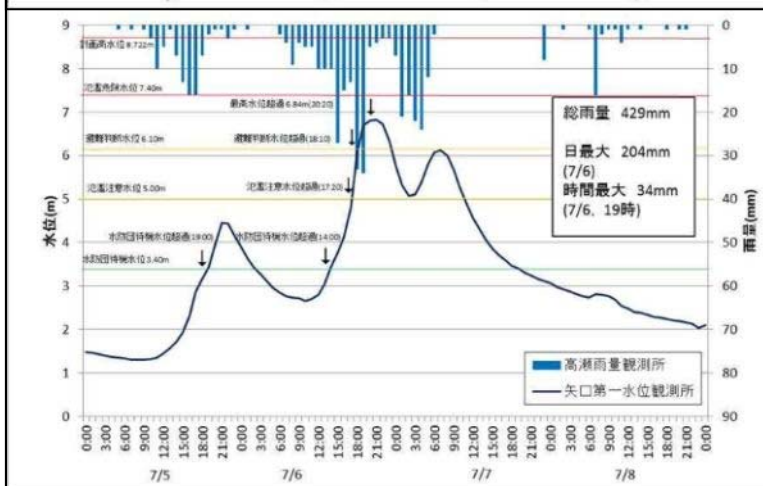
太田川水系根谷川
新川橋水位観測所



太田川水系太田川
飯室水位観測所



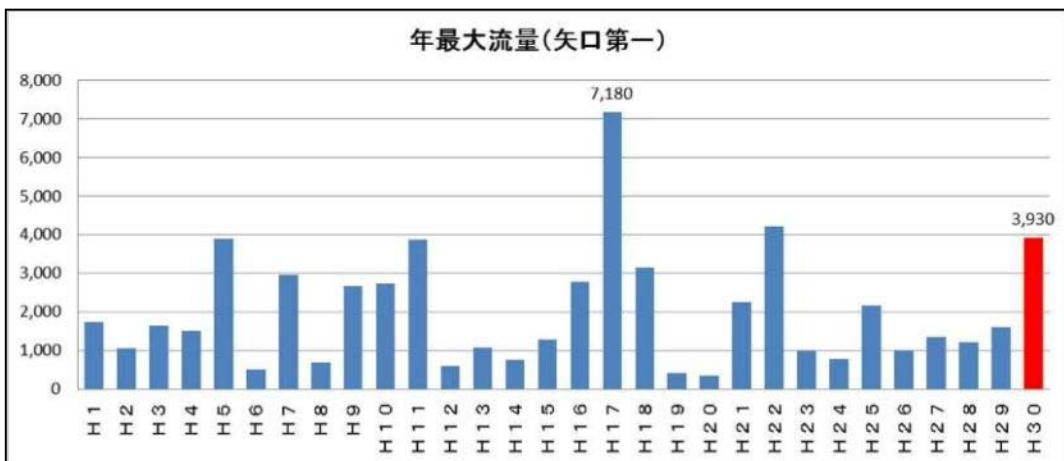
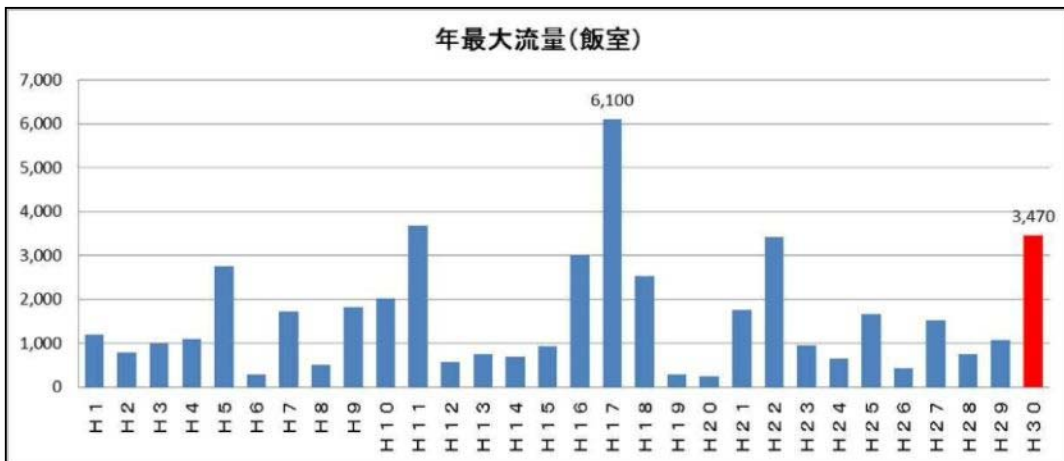
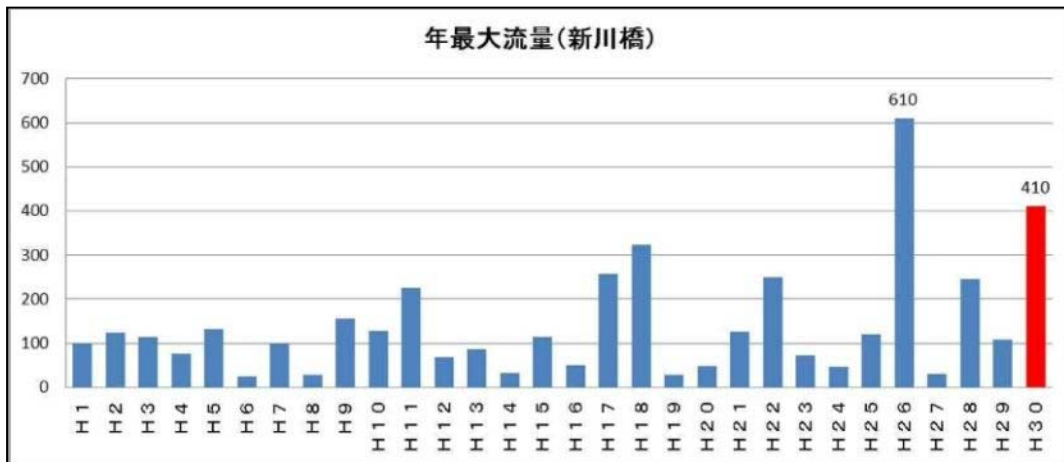
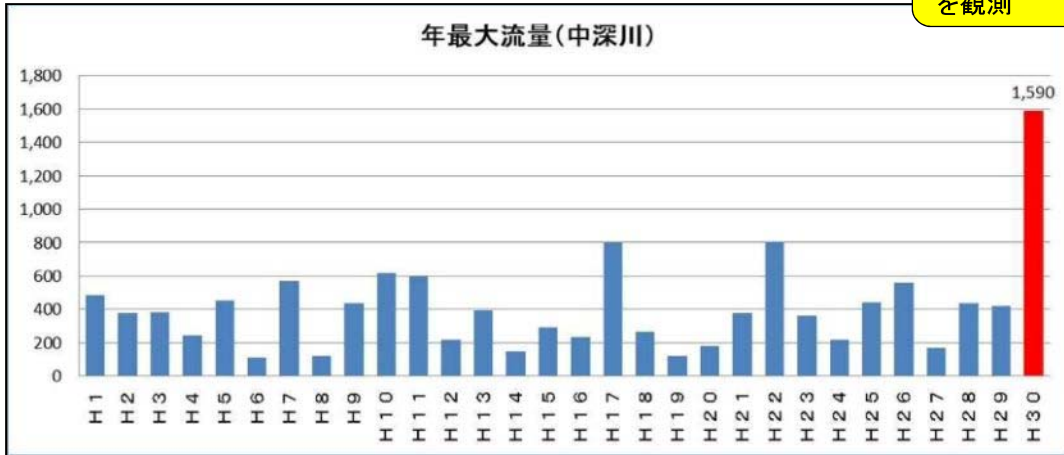
太田川水系太田川
矢口第一水位観測所



1-③河川流量の状況

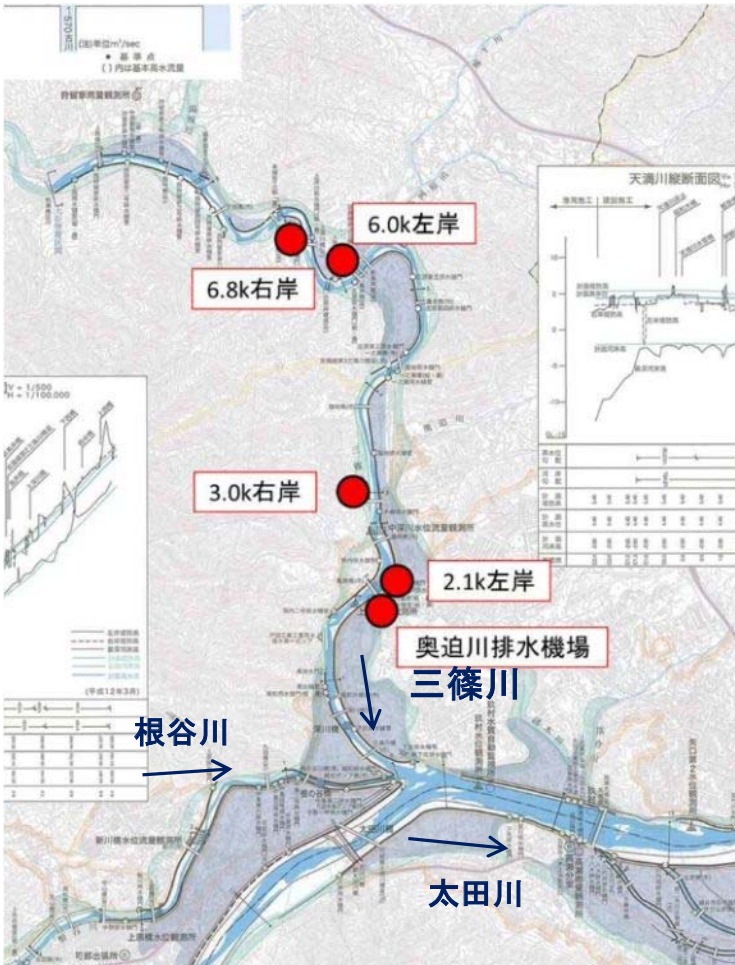
年最大流量の状況(暫定値)

三篠川では速報値で、戦後最大を超える流量を観測



2-①浸水被害の状況

○三篠川沿川を中心に浸水被害が発生



2.1k左岸



3.0k右岸



6.0k左岸



奥迫川排水機場



6.8k右岸



2-① 浸水被害の状況

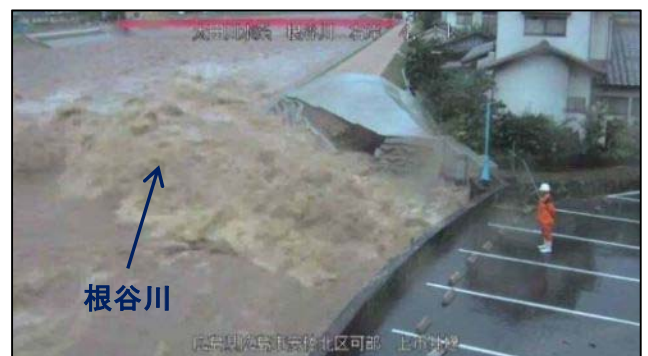
○ 河川の外水位が高い状況が継続し、内水被害が発生



三篠川5k900 鳥声橋



根谷川右岸4k200付近



2-②緊急復旧の状況(根谷川右岸4k200付近)

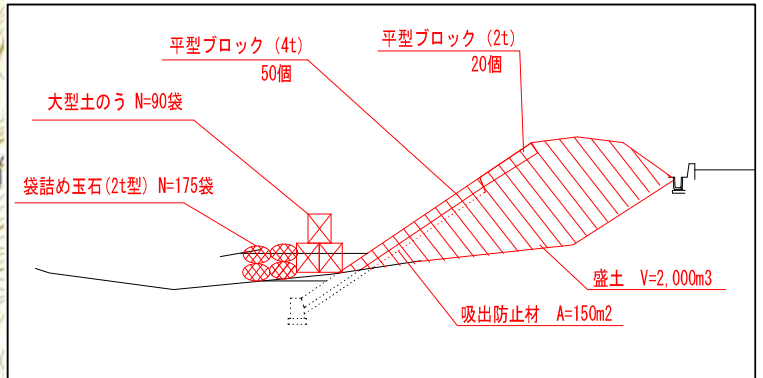
太田川水系根谷川右岸 4k200 付近 (広島市安佐北区可部 3 丁目地先)
《完成》

7月 6日	22時	緊急対策工事着手
7月14日		堤防盛土着手
7月16日	22時	緊急対策工事完成

【位置図】



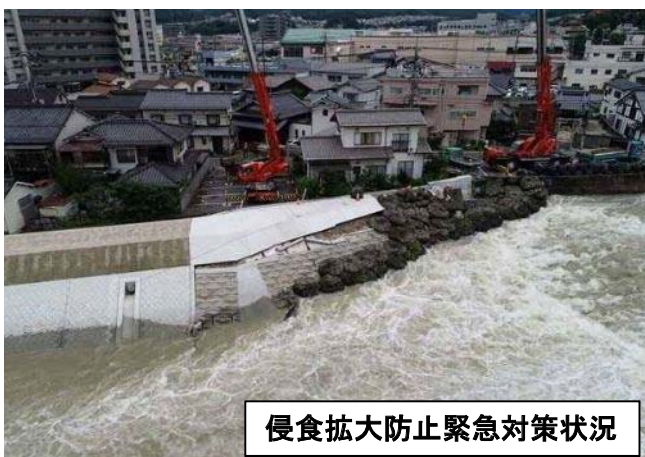
【復旧イメージ】



【緊急対策工事状況】



【緊急対策工事内容】



2-③緊急復旧の状況(三篠川右岸4k200付近)

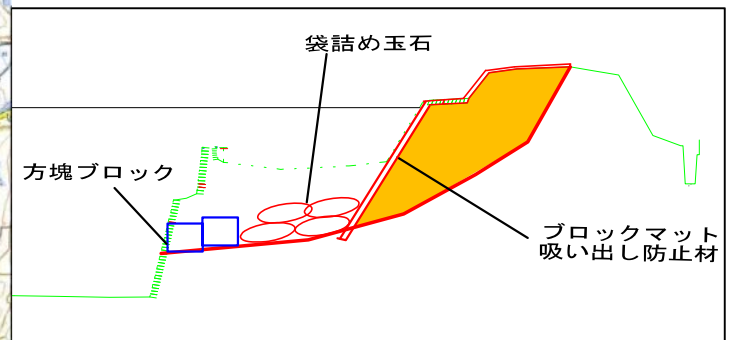
太田川水系三篠川右岸 4k200 付近（広島市安佐北区上深川地先）完成

7月 6日 (金)	22時	緊急対策工事着手
7月11日 (水)		堤防盛土着手
7月15日 (日)	1時	緊急対策工事完成

【位置図】 太田川水系三篠川右岸 4k200 付近（広島市安佐北区上深川地先）



【復旧イメージ】



【緊急対策工事状況】



【緊急対策工事内容】



2-④緊急復旧の状況(三篠川右岸5k600付近)

太田川水系三篠川右岸 5k600 付近 (広島市安佐北区上深川地先)
《完成》

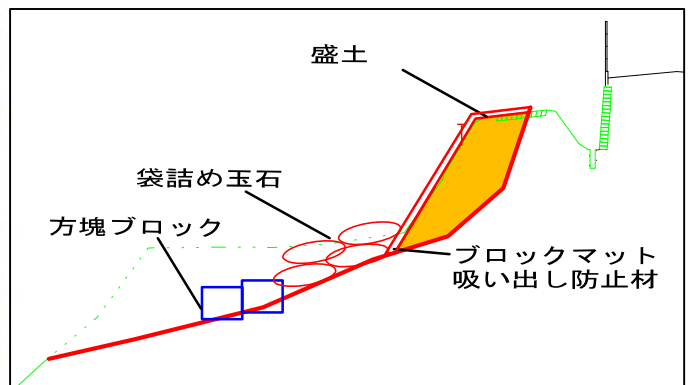
7月 8日	6時	緊急対策工事着手
7月11日		堤防盛土着手
7月17日	0時	緊急対策工事完成

【位置図】

太田川水系三篠川右岸 5k600 付近 (広島市安佐北区上深川地先)



【復旧イメージ】



【緊急対策工事状況】

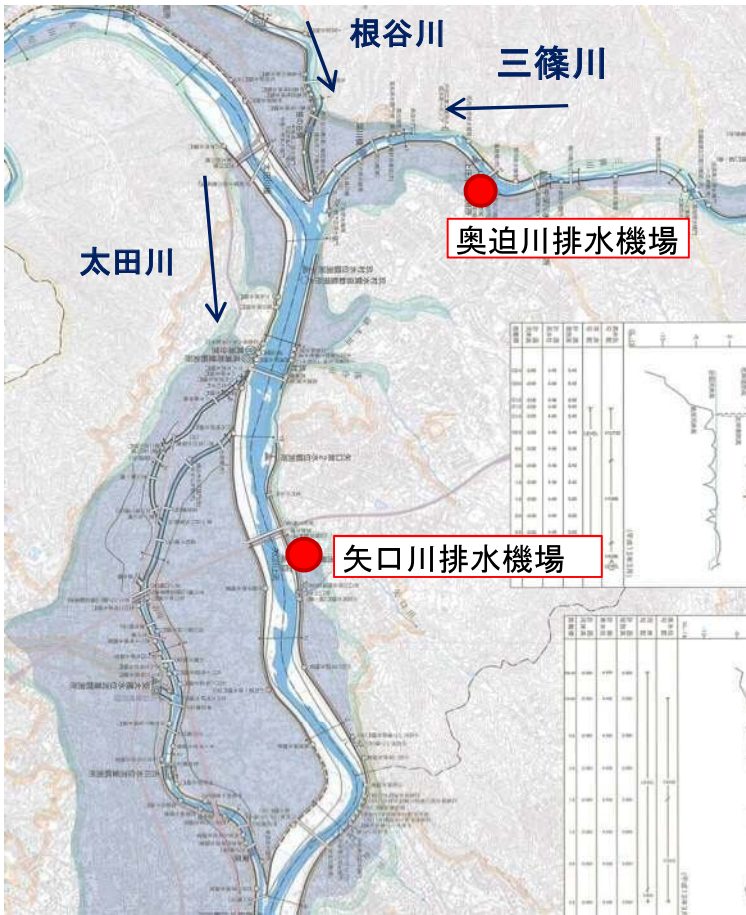


【緊急対策工事内容】



3-①水防活動

矢口川、奥迫川で排水ポンプ車を追加し、排水作業を実施



奥迫川排水機場地点

排水ポンプ車(30m³/min)

稼働開始時間		稼働終了時間	
7月6日	19:00	7月6日	22:00
7月7日	0:00	7月7日	17:30

矢口川排水機場地点

排水ポンプ車(30m³/min)

稼働開始時間		稼働終了時間	
7月7日	2:10	7月7日	13:50
7月7日	2:10	7月7日	13:50

排水ポンプ車(60m³/min)

稼働開始時間		稼働終了時間	
7月6日	23:45	7月7日	13:50

矢口川排水機場地点



奥迫川排水機場地点

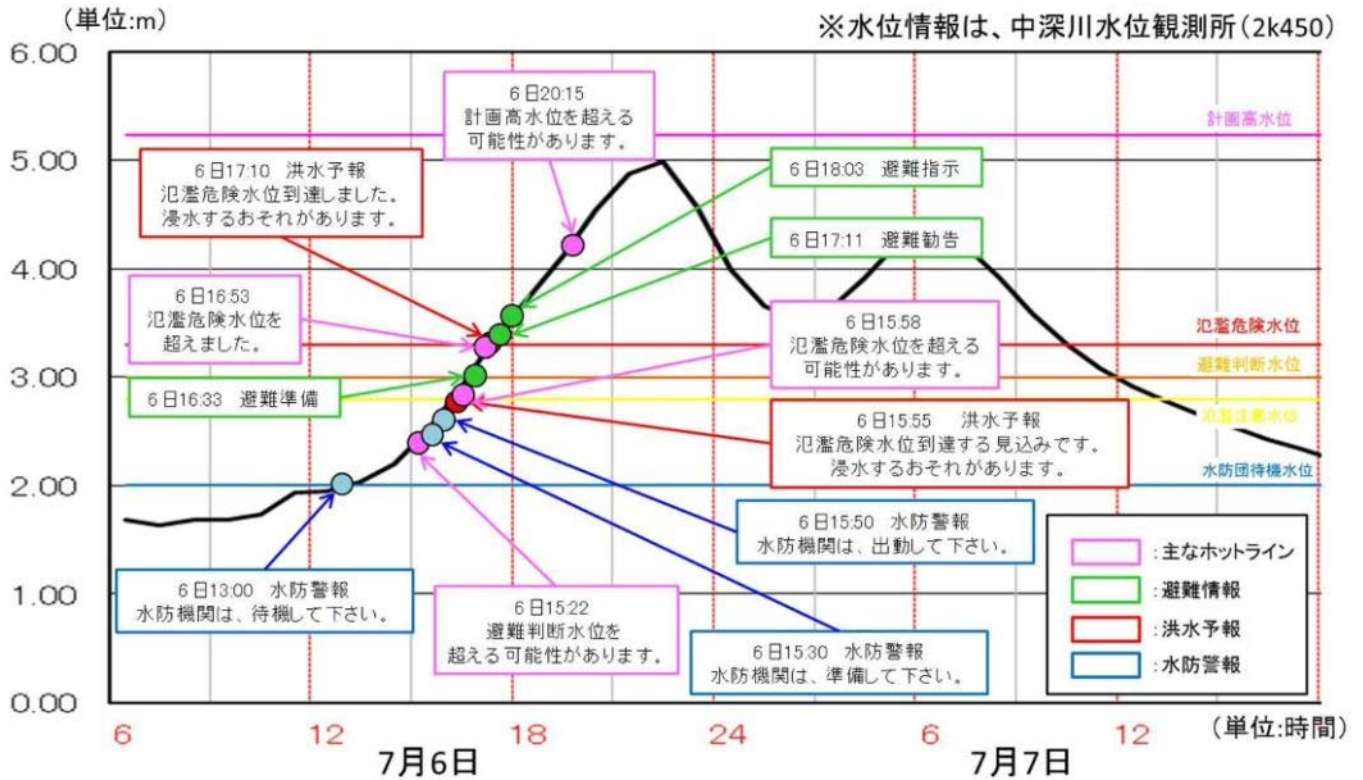


3-②水防活動

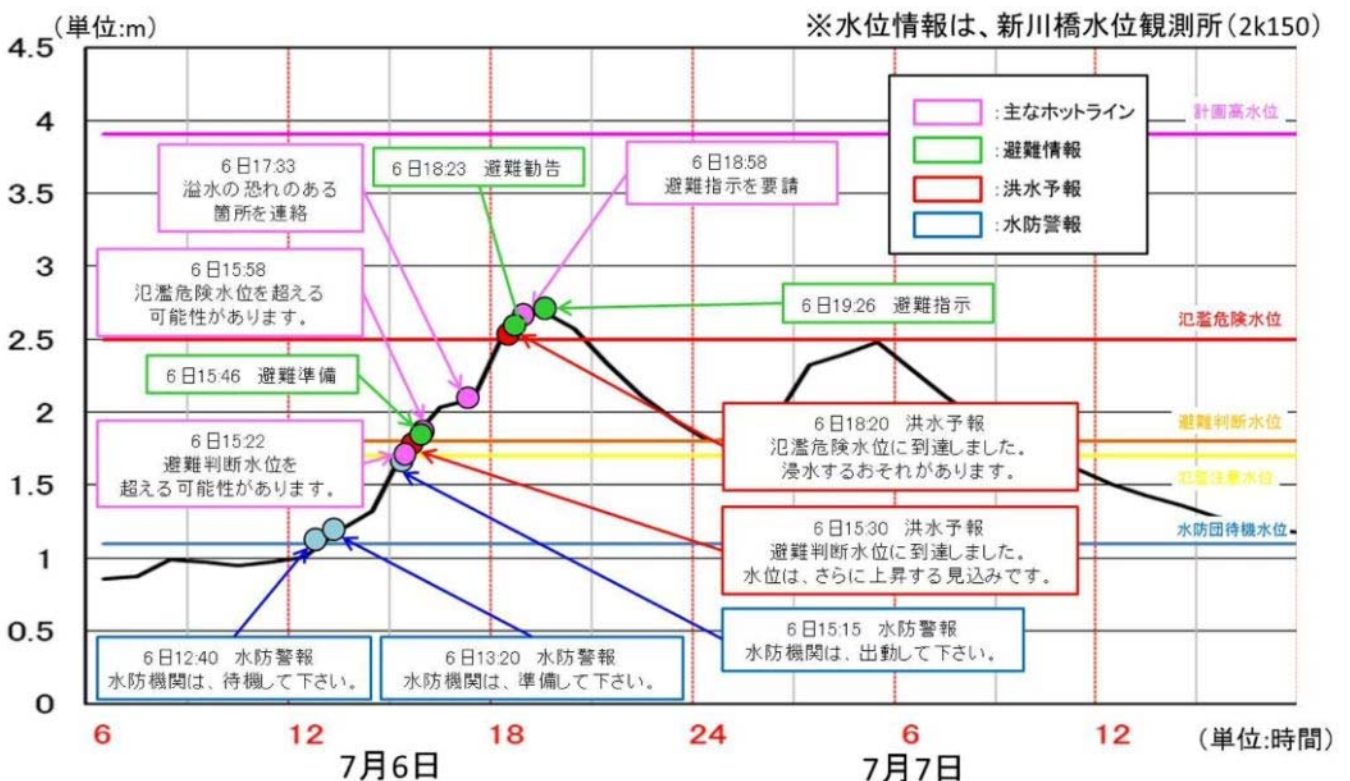
水防警報、洪水予報及びホットラインにより情報を提供

○今後の見通しに関する洪水予報等を行うとともに、太田川河川事務所長から安佐北区長へ、ホットライン(電話連絡)により、水位等の河川情報を提供した。

【三篠川】

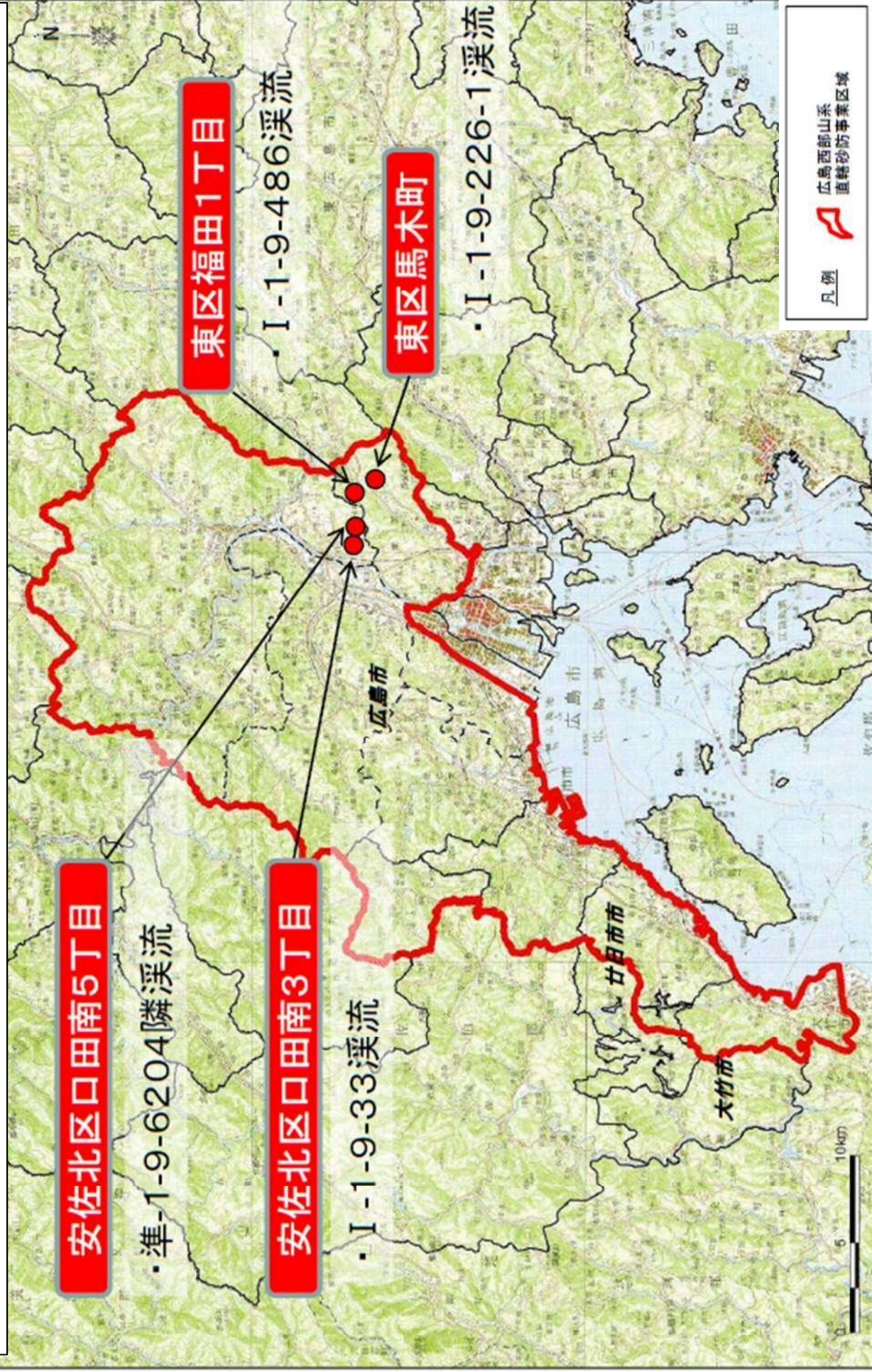


【根谷川】



4-① 広島西部山系砂防事業 応急対策状況

平成30年7月豪雨により土石流が発生した箇所において応急対策を実施中



4-②広島西部山系砂防事業 応急対策状況

- 1) 渓流内に残る土砂の流出を防ぐため、渓流の出口に大型土のうを設置します。
- 2) 渓流内から出てくる水を下流へ安全に流すために、大型土のうで水路を設置します。
- 3) 土石流の発生を速やかに感知し、地域の皆様にお知らせする警報装置(ワイヤーセンサー)を設置します。併せて、土石流の発生を確認するためのカメラを設置します。
- 4) 渓流内に残る土砂や流木などが流下した際に捕捉し、下流に流れるのを防ぐために強靱ワイヤーネットを設置します。

応急工事のイメージ



○土石流監視警報装置(ワイヤーセンサー)



○強靱ワイヤーネット



○大型土のうによる流路



【広島西部山系砂防事業 応急対策状況(7月13日)】

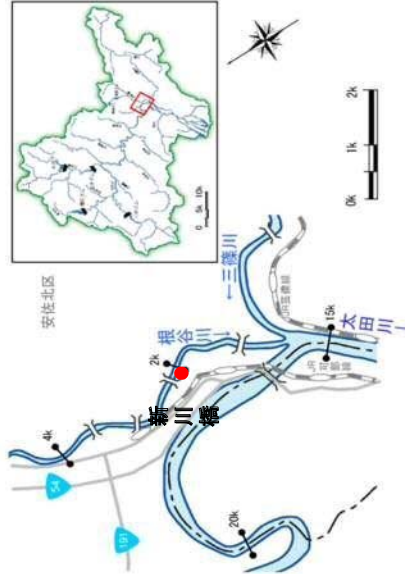


重機による進入路の確保(安佐北区口田南3丁目)

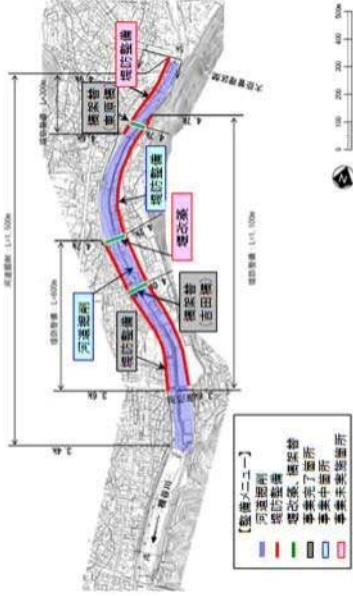
5-①治水事業の効果～根谷川～(平成30年7月豪雨)

- 根谷川流域では、流域平均累加雨量が402mmを記録、新川橋観測所では氾濫危険水位を超過した。
- 根谷川は、平成26年8月20日広島砂災害以降整備を促進しており、当該箇所の堤防が完成したことにより、浸水被害が防止された。
- 被害軽減額は約129億円(事業評価ベース)と試算される。

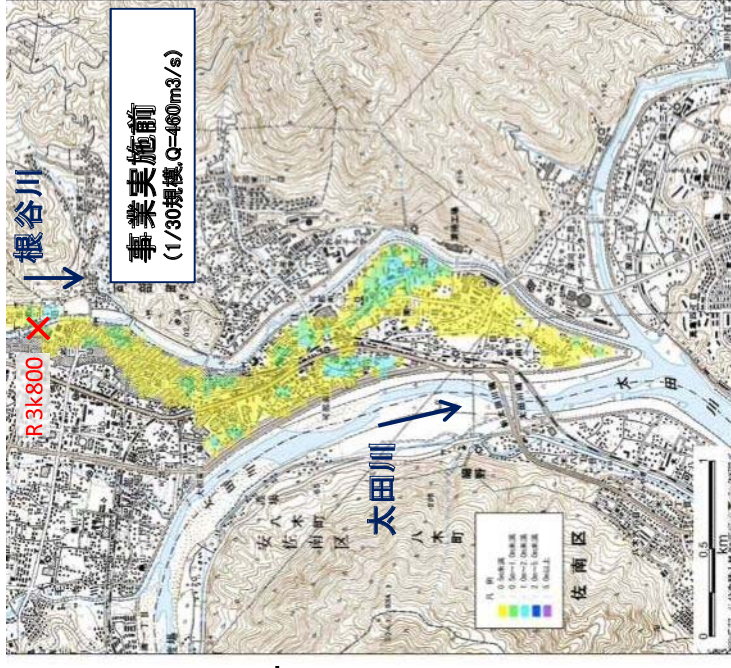
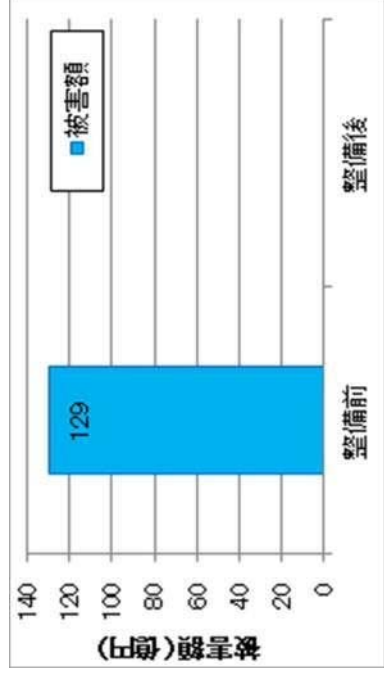
位置図



施設名(事業内容)



<出水状況写真>



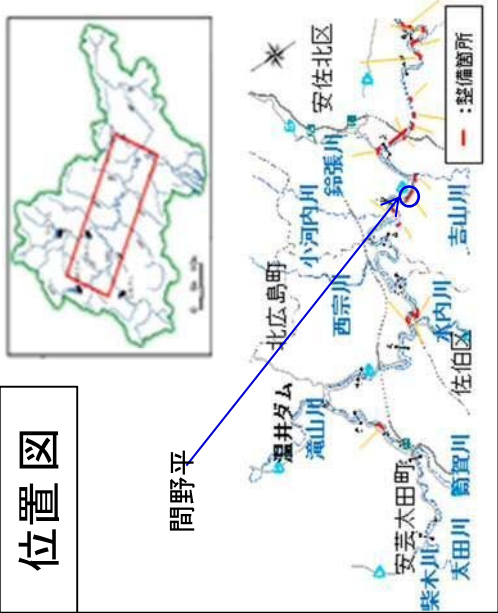
※ 数値や図示の出現、算出方法、算出条件を簡潔に記載

<本数値は、速報値であるため変更となる可能性があります。>

5-②治水事業の効果～太田川床上事業(間野平)～(平成30年7月豪雨)

- 太田川流域において、飯室水位観測所では避難判断水位を超過した。
- 太田川中流部では、平成17年9月洪水により床上浸水被害が発生した18地区において、平成19年度より再度災害防止対策を実施しており、当該箇所の事業が完成したことにより浸水被害が防止された。
- 被害軽減額は約14百万円(事業評価ベース)と試算される。

位置図



事業実施前



事業実施後

(輸中堤+宅地嵩上)

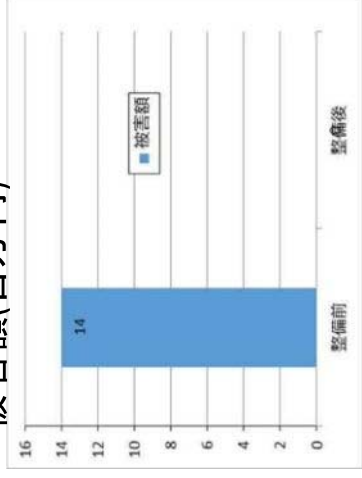


〈出水状況写真〉

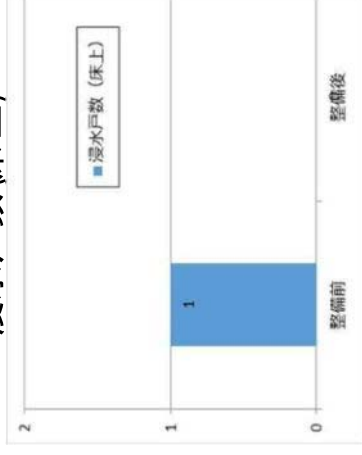


【H17】床上浸水被害あり。
【H30】被害なし

被害額(百万円)

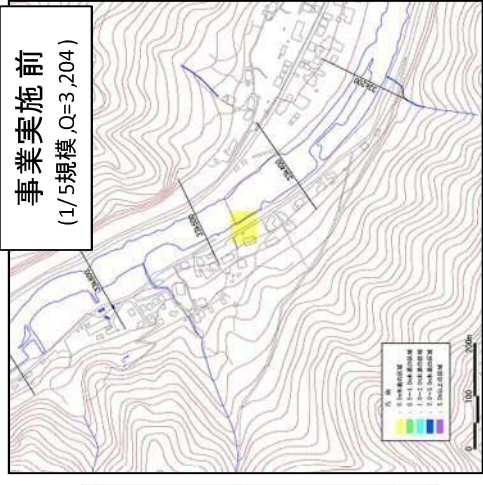


浸水戸数(床上)



事業実施前

(1/5規模,Q=3,204)



※ 数値や図示の出版、算出方法、算出条件を簡潔に記載

〈本数値は、速報値であるため変更となる可能性があります。〉

5-④治水事業の効果～温井ダム～(平成30年7月豪雨)

☆広島市安佐北区安佐町飯室付近で河川水位を約40cm低減

- 梅雨前線の影響による7月5日から7日までの豪雨により、温井ダム上流の流域では流域平均雨量256mmとなり、ダムへの最大流入量は毎秒約480m³を記録しました。温井ダムでは防災操作を実施し、さらに太田川下流の被害低減を図るため特別防災操作に切り替え、放流量を毎秒100m³まで絞り、合計約1千万m³の量の洪水を貯め、最大毎秒315m³の洪水を貯めました。
- この結果、広島市安佐北区安佐町飯室付近の水位を約40cm低減させる効果があったものと推定されます。

位置図



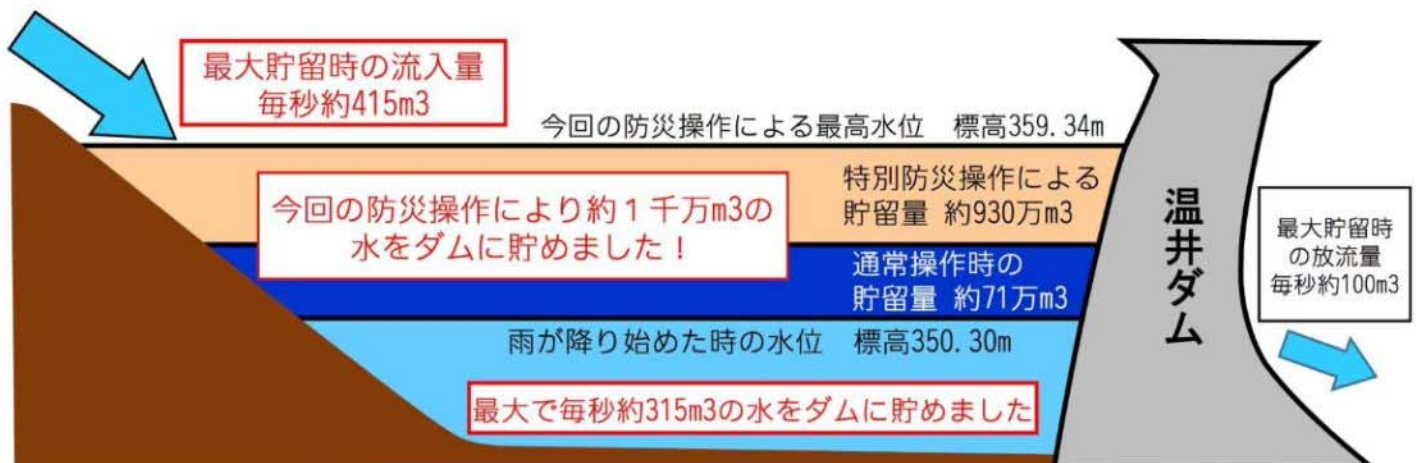
広島市安佐北区安佐町飯室付近における防災操作の効果



普段のダム貯水位 (標高350.30m)



今回の最高ダム貯水位 (標高359.34m)



※数値は速報値であり、今後変わることがあります。